

東京大学

理学部広報

第3巻 第5号 昭和46年5月15日

4 月理学部会合日誌

- 6 日 (火) 14:00~ 入試委員会 (修士)
- 12 日 (月) 10:00~11:00 大学院進・入学生のガイダンス
14:00~17:00 理学系研究科委員会
- 14 日 (水) 10:00~11:00 人事委員会
11:00~13:00 主任会議
13:00~15:00 総合計画委員会
15:00~17:00 教務委員会
- 15 日 (木) 16:00~18:00 教官懇談会
- 19 日 (月) 12:30~13:30 理職との会見
- 21 日 (水) 13:00~17:00 教授会
- 27 日 (火) 13:00~17:00 学生大会 (定例)
13:30~14:30 理系自治会と学部長会見
14:00~17:00 入試委員会 (修士)
- 28 日 (水) 10:00~12:00 人事委員会
13:00~15:00 総合計画委員会
15:00~17:00 会計委員会

教授会メモ

4 月 21 日 (火) 定例教授会 於 4号館物理会議室

1. 前回議事承認
2. 人事異動等報告
3. 学部学生の卒業
物理学科清水哲男の卒業が認められた。
4. 学部学生転学部について
5. 学部学生退学について
6. 研究生期間延長および入学について

7. 委員 (人事・会計) 選出

投票によって、今井、斎藤(信)、江上教授が人事委員に、立見、伊藤(清)、霜田教授が会計委員に新任された。なお、理学部の諸委員の構成は別項の通りである。

8. 学内状況、連絡事項等

1. 応用微生物研究所および農学部の状況が説明された。
2. 理学部職員組合との交渉の報告があり、とくにかねて各号館運営委をお願いしてあった宿直員の責任の範囲の検討を促進してほしい旨の要望があった。
3. 本年度の入学者の理一、理二から 19 名の辞退者があり、最終的には 3048 名
4. 和田靖全学学生委員より 5 月 14 日 (金) の午後から 16 日 (日) まで五月祭が開られるという報告があった。
5. 工学部の大学院における進学に関する問題について報告があった。
6. 学士入学に関する規則の検討について学部長が意見を述べられた。
7. 5 月 6 日 (木) に進学ガイダンスを行なう。ひきつづき植物園でピヤパーティーを行なう。雨天の際は 5 月 10 日に延期する。
8. 名誉教授の推薦について
9. 委任経理より支払う給与の所得税に関する注意が本郷税務署よりあった。これに関連して委託研究費からの人件費の支払いの手続については十分慎重にしていだきたいと学部長から要望があった。
10. 第 2 次定員削減については大学の特殊性を文部当局に説明している、との報告があり、この件に関し

て種々の意見が述べられた。

11. 大講堂の使用が部分的ではあるが近々中に始められる。

9. 幹事会報告 (宮沢委員長)

植村教授 (改革委員 (教官)) より詳しい説明があった。

10. 総合計画委員会報告

評議員, 主任, 施設長および諸委員

評 議 員

大 木 教 授
木 下 教 授

主任および施設の長 46. 4. 1

数 学	田 村	教 授
物 理	西 島	"
天 文	末 元	"
地 球	浅 田	"
化 学	浜 口	"
生 化	酒 井	助 教 授
動 物	秋 田	教 授
植 物	下 郡 山	"
人 類	渡 辺(直)	"
地 質	木 村	"
鉱 物	定 永	"
地 理	佐 藤(久)	"

臨 海	木 下	教 授
植 物 園	門 司	"
地 球 施	永 田	"
情 報 科	高 橋(秀)	"

委 員

人 事 委 員	野田, 岩堀, 今井, 斎藤, 江上
会 計 委 員	島内, 下郡山, 竹内(均), 伊藤, 立見, 霜田
教 務 委 員	大木, 小松, 西島, 岸保, 江上, 木村(敏)
総 合 計 画 委 員	久保, 大木, 木下, 河田, 古谷, 野田, 山口, 寺山, 海野, 小堀
幹 事	近く改選の予定
学 生 委 員	(全学) 和田(靖) (理) 桑原, 山下, 高橋(景)

教 職 課 程	竹内(均)
教 養 連 絡	木原
学 生 相 談 所	中村(誠)
学 寮 委 員	井上(康)
図 書 行 政	今井
学 生 保 健	中村(誠)
奨 学 委 員	宮沢, 正田
理, 広 報	和田(昭)
全 学, 広 報	佐々木(行)
ア ル バ イ ト 委 員	佐藤(久)
外 国 人 学 生 委 員	永田(武)

教官人事移動 (除退・休職)

氏 名	所 属	発 令 事 項	発 令 年 月 日
大 岩 元	物 理	助 手 に 採 用	46. 4. 1
飯 高 茂	数 学	講 師 に 昇 任	"
増 田 久 弥	"	"	"
新 谷 卓 郎	"	"	"
吉 田 政 幸	化 学	"	"
黒 田 晴 雄	"	教 授 に 昇 任	"
江 橋 節 郎	物 理	教 授 に 併 任	"
小 平 桂 一	天 文	助 教 授 に 配 置 換	"
関 口 理 郎	地 物	助 教 授 に 併 任	"
清 水 忠 雄	物 理	助 教 授 に 採 用	"
高 倉 達 雄	天 文	教 授 に 併 任	"
飯 野 徹 雄	植 物	教 授 に 配 置 換	"

永年勤続職員の表彰について

4 月 12 日付をもって本学部勤務の下記の方々を永年勤続者として総長から表彰されました。

記

物 理	佐 々 木 信 雄 氏
化 学	飯 塚 健 太 郎 氏
"	増 田 昭 三 氏
植 物 園	大 塚 靖 夫 氏
中 央	白 幡 康 男 氏

(以上 5 名)

七教授御退官 (続)

赤松秀雄教授

赤松秀雄先生は、明治 43 年 12 月 27 日に長崎県佐



赤松 秀雄 教授

世保に生まれ、第八高等学校を経て、昭和7年、東京帝国大学理学部化学科に入学された。昭和10年同化学科卒業後、大学院に進み、鮫島実三郎教授の下で界面化学の研究に従事された。昭和12年副手、同15年大学院を終わるとともに助手に就任、同18年助教授となり、同26年東京大学教授に就任し、鮫島教授の後任として化学第一講座（後に物理化学第二講座と改称）担任となられた。以来20年間にわたり、理学部化学科、理学系大学院化学専門課程における教育、研究指導に尽力された。この間、多数にわたる委員会委員を勤められたほか、昭和40年4月から同43年11月まで、大学紛争の困難な時期に評議員を勤めるなど、学内行政にも多く貢献された。

赤松先生の初期の研究は固体の静止摩擦係数に対する有機分子の吸着の効果に関するものであり、昭和17年「固一液界面における吸着現象の研究」により理学博士の学位を受けられた。その後、炭素材料の研究に着手され、X線回折、電子回折、磁化率や電気抵抗の測定など、様々な実験手段を総合的に駆使して、炭素材料の構造と物性に関してすぐれた研究を展開された。また、日本学術振興会第117委員会の指導的メンバーとしての活動、昭和37年東京で開催された国際炭素会議組織委員会総幹事としての仕事などを通じて、わが国における炭素材料の研究の発展のために大きな貢献をなされている。

炭素材料の研究の過程で、赤松先生は多環芳香族化合物の結晶の電気伝導性に関心を抱かれ、それが契機となって先生の指導の下に展開された一連の研究により「有機半導体」という新しい分野が開かれた。この研究は世界に先駆けた独創的なものであり、今日各地で活発に行なわれている有機結晶、分子集団の電子的過程の研究に大きな影響を与えている。有機結晶の電導性に関する先生の研究には、昭和40年日本学士院賞が与えられた。

東京大学における上述のような教育・研究活動のかたわら、第6・7期の日本学術会議会員をつとめたほか、化学研究連絡委員会委員長、日本化学会副会長などをつとめ、わが国の学術行政のためにも尽力して来られた。

赤松先生の最終講義は、去る3月16日に化学教室新館5階の講堂で行なわれた。その際に先生は、研究生活を回想して、先生の研究の発展の重要な契機が、比較的粗末な装置を用いた“physico-chemical studies”から生まれていること、そしてこの性格の研究が今日では少なくなっていることを指摘されたが、その講演は聴く者に“physico-chemical studies”の意義について大きな感銘を与えた。

赤松先生の学術的活動は著るしく幅が広いが、趣味の面も幅広いようにお見受けする。若い頃は山歩きを好んでなさったようである。かつては画家を志したこともおありになるとのことで、美術関係の造詣が深い。また、短歌については、長年にわたり「潮音」グループの重要なメンバーとして活躍なさっている。

田中 信徳 教授

明治43年8月11日 長野県松代市に生まる。

現住所： 豊島区南大塚1丁目4-3

略歴： 昭和10年東京帝国大学理学部植物学科卒業後、大学院学生、副手、助手、講師、助教授を経て、36年教授になられ、遺伝学講座を担当された。この間42年4月から45年3月まで附属植物園々長をも兼ねられた。

専攻： 細胞遺伝学

田中教授のご研究は、まずカンアオイ属等の染色体に始まり、その後、スゲ属を中心にカヤツリグサ科11属194種3変種の植物の、極めて小さくまた数の多い染色体について細胞遺伝学的研究を丹念に行なわれ、これら植物にみられる異数性を明らかにされた。この研究は異数性の研究の先駆的なものであり、その後の研究の基準ともなるもので極めて高く評価されている。その後、細胞分裂に及ぼす化学物質の影響を研究、成果をあげてお



田中 信徳 教授

られたが、ビキニ原爆実験の折には、原爆被爆者の毛髪
の放射線による異常細胞分裂を早期に発表し、この問題
の重大性をいちやく警告された。さらに植物材料を用
いて放射線の影響を研究され、またクロボ菌の遺伝学的
研究、あるいは電子顕微鏡を用いての染色体の複製と情
報発現の機構を明らかにする等、新しい遺伝学をもとり
いれられて研究を進められ、また多くの優秀な学者を育
てられた。このほか、国際学術誌キトログアの編集、あ
るいは日本遺伝学会々長など斯学の発展に努力され、
1968年国際遺伝学会が日本で開催された折には、財務
委員長としてその運営に参画活躍された。

先生は牧師の家に生まれ、幼年時代をハワイで過ごさ
れた。「地の塩となれ」の言葉を胸に刻まれ、ご自身に
は極めて厳格であられたが、他人に対しては寛容であ
られ、懇親会の席などでは研究室の若い方々とコーラス
をされることもあった。

原 寛 教授

明治 44 年 1 月 5 日 東京市麴町区飯田町現在の
(東京都千代田区) に生まれる。

現住所: 目黒区下目黒 3-31-6

略 歴: 昭和 9 年東京帝国大学理学部植物学科卒業、
引続き副手、講師、助教授を経て 32 年教授
になられ、第一講座を担当された。この間、
43 年 4 月から 46 年 3 月まで東京大学総合



原 寛 教授

研究資料館々長、45 年 4 月から 46 年 3 月
まで理学部附属植物園々長を併任された。

専 攻: 植物分類学, 地理学

原教授は、学習院時代まではキノコの収集や分類を盛
んにされたとのことですが、われわれの目にふれる最初
の論文は、北海道日高地方の植物誌で、それから次第に
東亜の植物の分布に興味を拓げられ、日本における植物
の分布図を完成させると共に、わが国の植物との関連性
からその走源とも考えられるネパールヒマラヤの植物の
研究に進まれ、38 年 3 月以来数回にわたって、インド、
ネパール、ブータン、シッキム等の各国へ、本学派遣の
海外学術調査隊々長として出張され、多くの植物を収集
されて多大の成果を収められた。43 年 4 月には東京と
大阪の高島屋で、その一部を現地の風俗と共に公開展示
され、世人に深い感銘を与えられました。またその間、
高等植物の種進化学、細胞分類学等に幾多の業績をあげ
てこれられ、さらに昭和 44 年 4 月からは日本植物学会々
長として学界の発展に尽され、また学術会議第 7 期会員
などをされて、幅広い活動を続けてこれられました。

先生は非常に健脚で、インドの山、日本の山と登られ
るが、これは趣味というよりも職業というべきでしょう
か。お若い頃はテニス、卓球などお得意で、植物園に教
室があった頃、卓球好きな園長の中井猛之進教授の良い
お相手でした。植物学教室は原教授が卒業された昭和 9
年に、植物園から本郷に引越した。

なお、後進への別れの言葉として「引用するには原論
文にあたるように」とのことでした。

理学部ところどころ

古い文書から No. 3

前号につづいてもう一度往年の新聞紙面から理学部に
関係のある記事を拾ってみた。なお、数年まえに1号館
地下を整理していた際、伊能忠敬の手紙と遺品が発見さ
れた。手紙の方は現在史料編さん所の専門家に調べてい
ただいているので、次号に関連の記事とあわせて発表し
たいと考えている。

明治 11. 12. 24 東京日日

東京大学理学部卒業式に電気光を試用

今日午後7時より一ツ橋外なる東京大学理学部にて施
行せらるる物理学卒業証書授与式には、電気光を試用せ
らるる由なれば、来観人は定めて多かるべし。

明治 14. 7. 11 東京曙

東京大学卒業式

庭には電気燈を点じて白日より明か

9日東京大学に於て4学部の新卒業学位授与式を
行はる、大学校の門には国旗を建て数千の球燈を満庭に
釣飾し、午後7時一同講堂に入り着席すれば奏楽あり、
総理加藤君卒業生に学位証を授与せられ、学生代表1名
総代として謝辞を述べ、続いて法学部鳩山和夫、同学部
ホートン、理学部菊地大麓、医学部ベルツの諸氏交々祝
辞あり、福岡文郎御祝辞をのべられ、了りて別室に於て
夜会を開かる。庭中には球燈の外に電気燈を点じけれ
ば、光暉四辺を照して白日よりも明かなりし。

明治 16. 7. 29 東京権浜毎日

神田一ツ橋に植物園分園設置

神田区一ツ橋通りの旧中学校跡地は、今度東京大学所
轄小石川植物園分園と定められ、此程より樹木植付に取
掛られしと。

明治 23. 1. 15 (時事)

理科大学の地震機

理科大学にては是迄気象台と同じく驗震器を備へあり
て地震の観測をなし来りしが、学理研究の資に供するも
のなるが故に一入精巧を要するを以て、今度英国より精
撰の器械を買入れ又其掛員は是迄重に関谷教授なりしよ
り、同教授が不在中は往々観測を欠きし事もありしに、
爾來は必らず観測を洩らさざる様諸事規則正しくする筈
なりと。(吉野誠治)

お知らせ

○昭和 46 年度イタリア政府奨学金留学生の募集

専攻分野: 人文科学, 社会科学, 自然科学および芸術
給費期間: 昭和 46 年 11 月~47 年 6 月まで
締切日: 5 月 18 日 (火)

○昭和 46 年度スウェーデン政府奨学金留学生の募集

専攻分野: 人文科学, 社会科学, 自然科学
応募資格: 大学卒業生
締切日: 5 月 18 日 (火)

編集 和田昭允
理・1号館 217号室 内線 2298